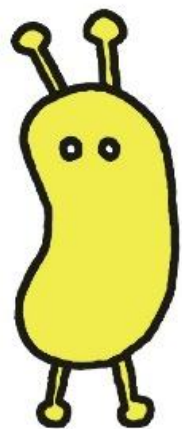


子どもたちとお母さんたちの笑顔のために

～保養のニーズと現状～



ふくしま

ぽかぽか

プロジェクト

2018年4月7日

**FoE Japan**

矢野恵理子



**FoE  
Japan**



# 7年経った今、福島で暮らす人たち

復興という名のもと  
強力なキャンペーン

福島は安全です  
～子どもたちへの  
熱心な教育～

放射能・被ばく・健康被害に関して

- 気にしていない
- 気にいるが、気に仕方が違う
- 気にしていることを隠している
- 話題にすることがタブー化されている

不安を心の奥に閉まって  
何事もないように暮らしている

福島を離れると

放射能の事を話せる場に来ると、ほっとする。  
子どもを自然の中で自由に遊ばせてあげられる。  
食べ物を気にせず口にできる。

# 保養プログラムが生まれた経緯



3 1 1 以降の日本政府の基準：

「年20mSv 以下の地域に住む人は避難の必要はない」

本来：少なくとも公衆の被ばく限度を「年1 mSv」  
という国際勧告を守り、幅広く「避難の権利」を認めるべき

避難できない子どもと妊婦のために

線量の低い場所で野外活動を

そして、全国の市民団体の方々が、福島県や関東の子どもたちを呼んで野外活動を行う保養プログラムの開催を始めた。

# 日本の保養団体の実態

- ◆ **全国保養実態調査報告書** 2014年11月～2015年10月までの1年間  
リフレッシュサポートと311受け入れ全国が中心で調査  
107団体 9000人の子どもたちが県外への保養に平均5.3日参加  
1回の保養で1人の参加者に、7万円以上の費用が掛かっている。  
(234以上の保養団体があることから、推定約15,000人が参加しているにとどまる)

## 全国の保養団体は資金的・人的に疲弊している

- ◆ **要望書提出** 2017年6月26日  
全国104団体が、国と福島県に保養への  
公的支援をお願いする要望書を提出した。

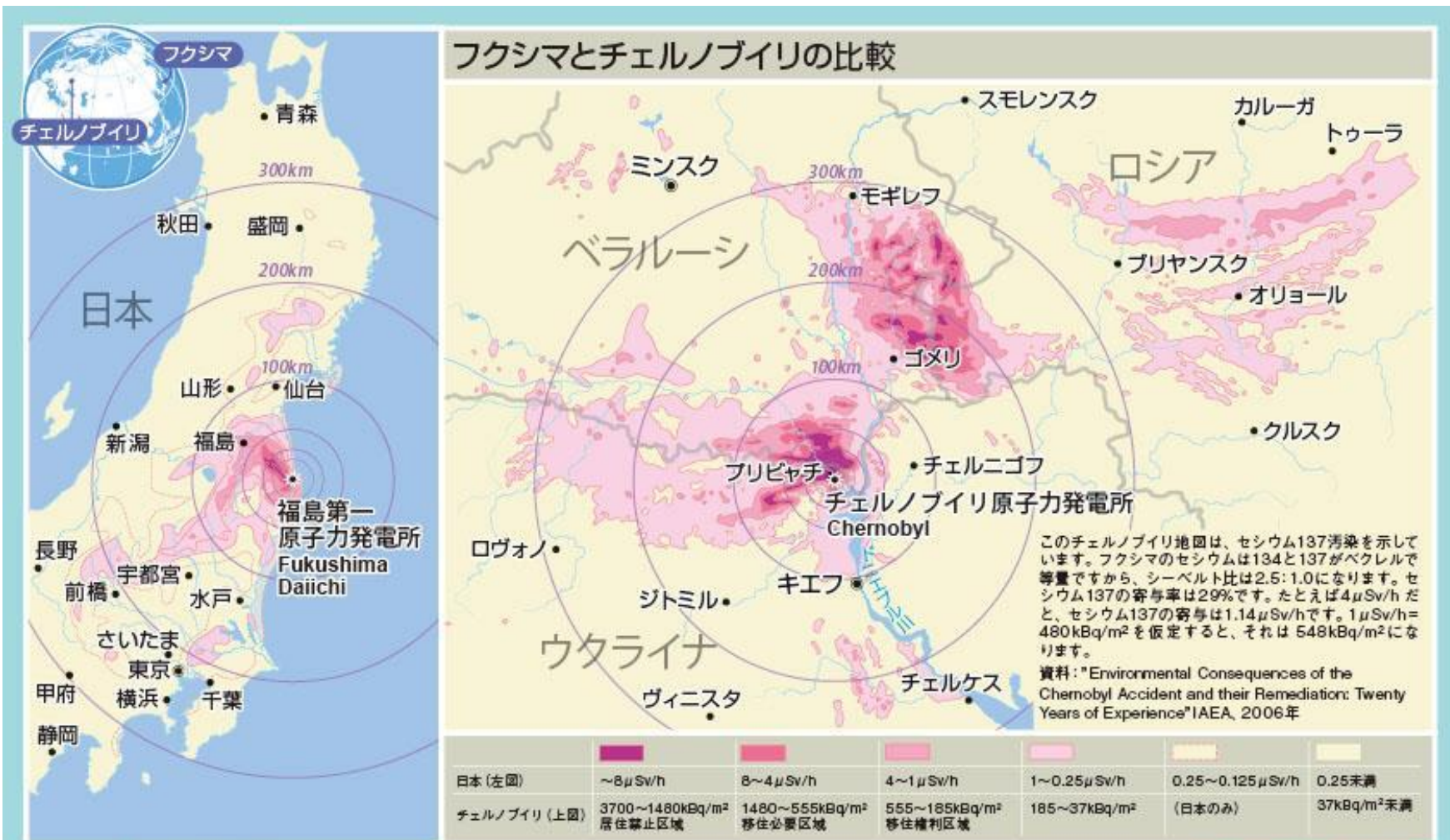
国や福島県に要望書を提出するが、国の政策や  
公的支援への道は遠く、市民団体が担うには、  
厳しい状況が続く。





# チェルノブイリで保養は

チェルノブイリ原発事故後5年目 ⇒ チェルノブイリ法  
汚染地域に暮らす18歳までの子ども  
3週間/年 保養の権利がある



ウクライナ  
5万人(約15万人中) 2012年  
ベラルーシ  
10万人(約15万人中) 2013年

# 食品の基準と体内蓄積

厚生労働省の基準

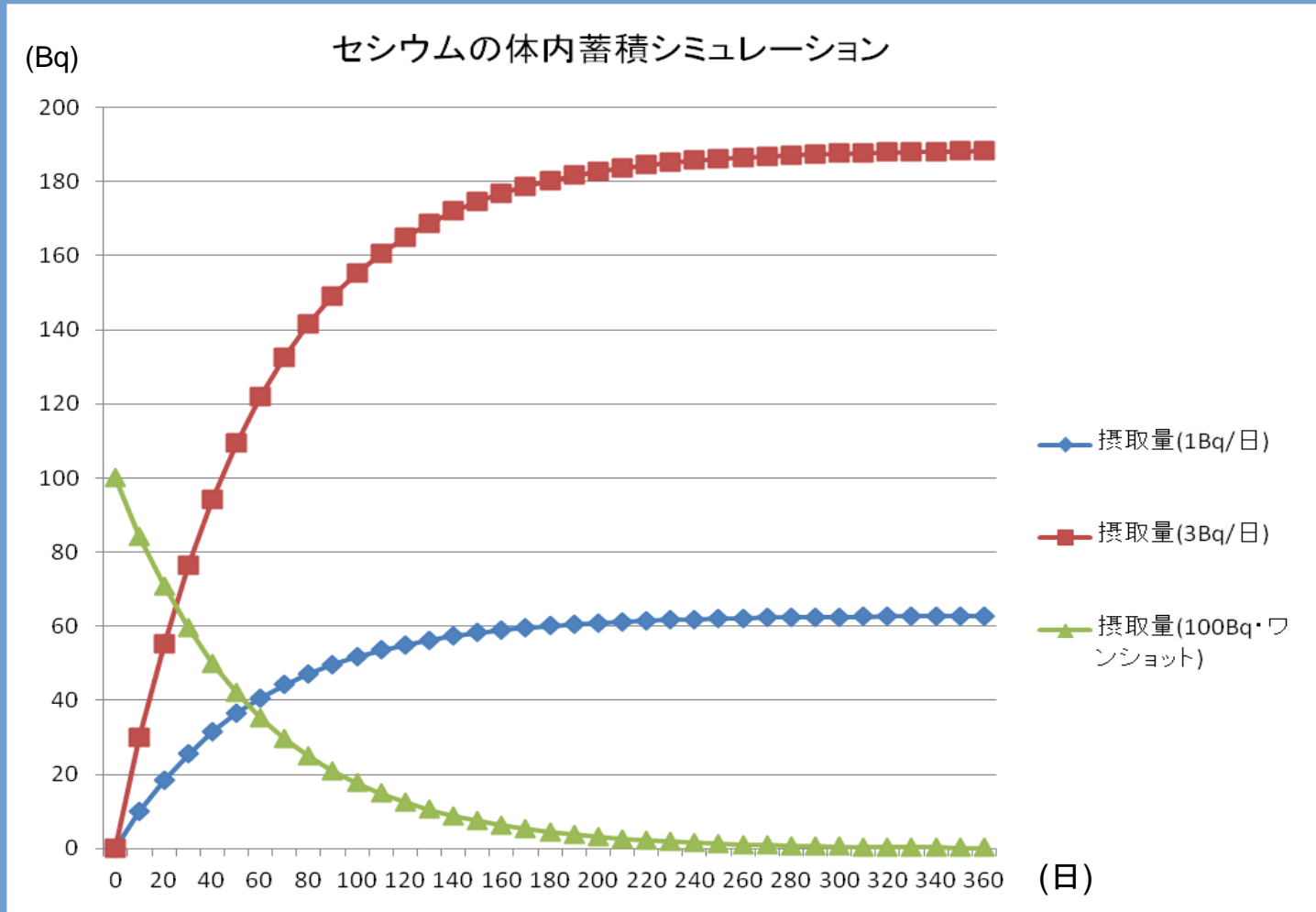
放射性セシウムの新基準値 (単位:ベクレル/kg)

食品群	一般食品	乳児用食品	牛乳	飲料水
基準値	100	50	50	10

※放射性ストロンチウム、プルトニウムなどを含めて基準値を設定

## 1回の大量摂取と慢性摂取

4歳児 (生物学的半減期=40日)  
 を想定したセシウムの体内蓄積  
 一回摂取 ・ 慢性摂取の比較



資料：ICRPの資料を基に市民放射能監視センター青木一政氏作成



# 「福島ぽかぽかプロジェクト」

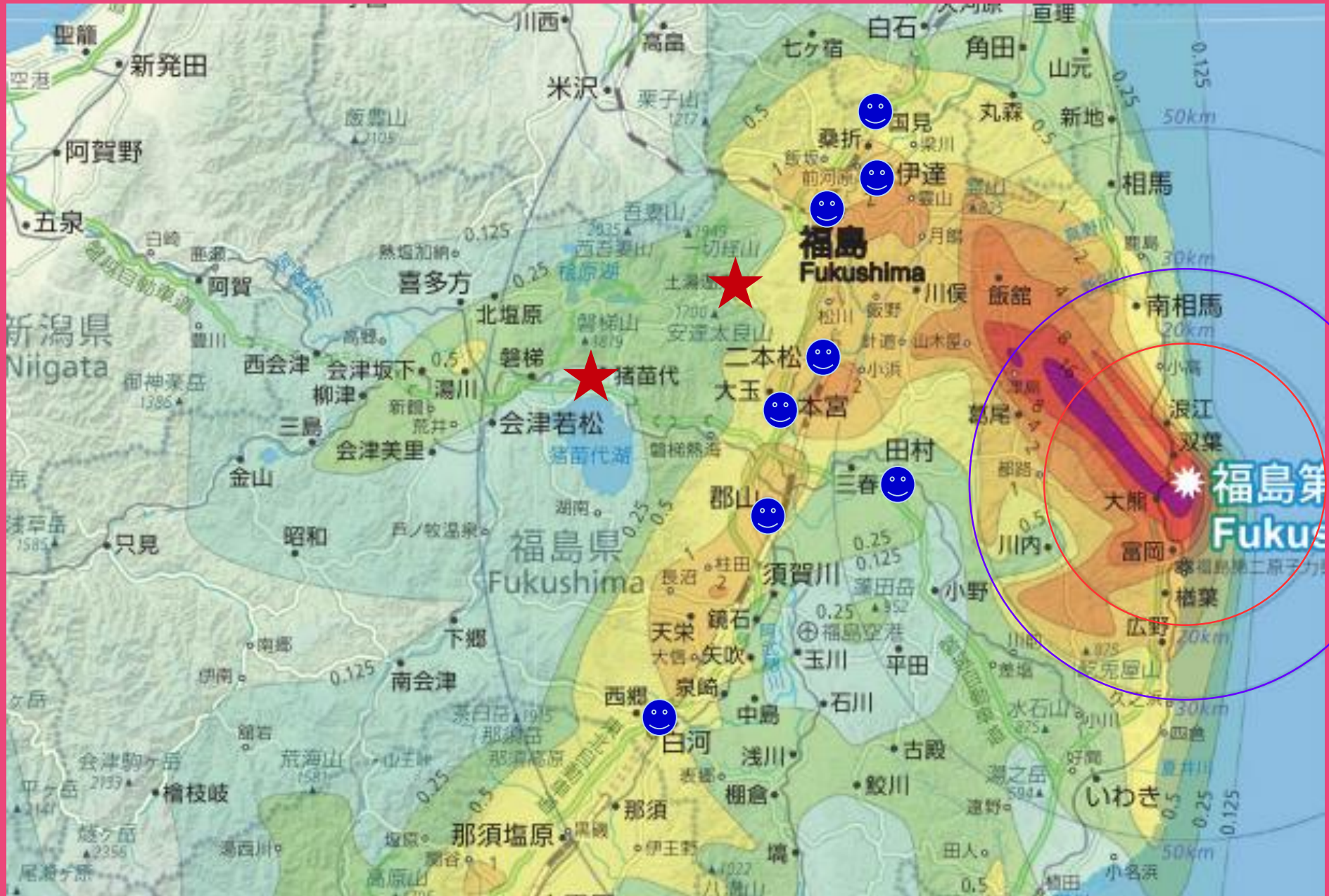
2012年1月福島市渡利地区の妊婦・子ども対象  
で土湯温泉で始まる

2013年より、猪苗代「ぽかぽかハウス」にて、  
年間8回の週末保養と南房総で子ども対象の年2回  
年間約250名 約500万円





# ぽかぽか参加者と開催地（放射能汚染地図）





# 猪苗代で保養に取り組むわけ

- 働くお母さんにとって、長期保養は難しい
- 週末だけでも、少しでも線量の低い場所で過ごしたい。
- ぽかぽかハウスの敷地内、外遊びする周辺の測定を行い、土壌測定も行った。
- 前庭の線量の高い場所は、土を入れ替えた。
- その後も測量は定期的に行っている。



- 雨水が落ちる場所の線量は、除染後も0.09を示しており、土遊びをしないよう注意している。

- 西日本中心の野菜・果物、極力添加物の入らない食材と



## 避難から戻られた方

- ・住宅支援打ち切りや帰還政策に加え、経済的事情や家庭の事情により避難先から戻られた方

## 浜通りの方

- ・原発事故後、区域内避難者を受け入れた自分たちの地域が、実は放射能に汚染されていて、子どもたちの健康に危険だと知らなかった方
- ・津波の被害で、避難や保養をととても言い出せなかった方

## 原発事故後出産された方

- ・原発事故後出産し、今まで放射能の事をあまり知らなかったけれども、子どもの健康を心配し情報を求めている方

## 今までの参加者

- ・家庭の事情で避難できずに、自分を責めてきた方、短期の避難から戻って、福島で生活している方。





ぽかぽかハウスの  
の様子





猪苗代の  
自然の中で





自炊タイプの  
保養です。



西日本中心の野菜や果物。  
添加物の少ない食事や手作りおやつ





# セミナーや 甲状腺検査





# お楽しみ会





夜大人たちの  
交流会







南房総での  
ぽかぽか開催







こどもたちの  
笑顔と元気！





# 保養の役割



- ① 子どもたちが、安心して思いっきり外遊びできること。
- ② お母さん、お父さんが、放射能に関して、不安な気持ちを話せたり、共有できること。
- ③ 福島で子育てすることを選んだ人たちを、全国の支援者が寄り添い応援していると伝えられること。

## ほかほかをやっていて良かったと思うこと

- ・ お母さん方が、笑顔になって帰って行くこと。
- ・ お母さんお父さんが、いろんな悩みを口にしてくれること。
- ・ 子どもたちが、また来ることを楽しみにしてくれること。
- ・ お父さんやおばあちゃんも参加してくれること。





# ぽかぽかの 若者ドイツへ



ドイツの財団より、2016年4月、福島とベラルーシの若者をドイツの交流事業に呼ばれ、ぽかぽかから5名の若者がドイツのレンズブルグを訪れました。

ドイツでは、風力発電所やバイオマス発電所を見学したり、高校に通いながら、チェルノブイリや福島原発事故に関する様々なイベントに参加しました。



# エネルギー ワークショップ



先週末、中高生向けに、エネルギーワークショップを開催。  
大学生が、講師を務め、子どもたちと一緒にエネルギーについて考えたり  
調べたりして発表したり、会津電力の太陽光発電所を見学に行きました。





# 保養の今後と福島ぽかぽかプロジェクトの試み

## ◇ 参加者からボランティアへ

小学生から高校生、中学生から大学生になった保養参加者からボランティアへ、お母さんお父さんもスタッフへ



## ◇ 自主企画「福島ぽかぽかプロジェクト」

- 希望者が多く、思ったように保養に参加できない。
- 参加者が、自分たちが必要としている保養を、仲間を募って自主企画する。
- メニューやスケジュールを自分たちで決め、自ら運営し、食材やボランティア支援などを事務局が手伝う。
- 1回あたりの経費を減らし、回数を増やす。来年度以降、徐々に自主企画を増やし、将来的に自主企画でのぽかぽか保養を目指す。



## ◇ 福島ぽかぽかプロジェクトユースチーム

中高生を中心に、エネルギー講座等を通して、福島で起こったことを自ら考え発信していくグループの立ち上げ。これから、風力発電、地熱発電、小水力発電など、見学したいと子どもたちから声が上がっている。



- 福島での子育ては、心配しながら、我慢しながら、あきらめながら…の生活で、みんな必死です。3.11を忘れはしませんが、気持ちの奥に閉じ込めて生活している状態です。そんな中、保養に参加できることは癒しであり、本音を話せたり、考えを共有できる貴重な場所です。
- ホットスポットなど放射線量が高い場所が福島にはたくさんあります。そんな場所で遊ばせたりしなくてはならず、普通に生活しているからこそ、保養が必要なのです。
- 原発事故によって、私たちが負ったいろいろな問題は、自分一人ではどうすることもできない問題です。だから、保養は私と家族にとって、大切な機会です。
- 少しの間でも放射能が高いところから離れて過ごすことができること、その環境で自由に遊べること、放射能に関して、近い考えのお母さん方で気持ちを共有できる機会が保養にあります。
- 帰還した方も多く、需要も増え、競争率も上がっているので、ぜひ回数を増やしてほしいし、1年でも長く継続してほしい。





保養希望者がいる限り、1回でも多く、1日でも長く、保養を続けていく必要を感じています。



こどもたちと家族の笑顔のために  
ご支援をよろしくお願いします。

